



Title	北大法学論集総索引 第1巻 - 第20巻 (1951年 - 1970年)
Citation	北大法学論集, 21(4), 212-200
Issue Date	1971-03
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/27913
Type	bulletin (article)
Note	総索引
File Information	21(4)_P212-200.pdf



[Instructions for use](#)

北大法学論集総索引

第1巻—第20巻

(1951年—1970年)

凡 例

1. この索引は、北大法学論集の第1巻から第20巻までに掲載された論文の検索の便宜のために作成された。
2. 項目の選定は便宜的なものである。
3. 1つの論文が2つ以上の項目にまたがる場合にはダブルで掲載した。
4. 各項目の中の配例は発表された時の古いものから順にならべた。
5. 書評・紹介には△印を頭に付した。
6. 執筆者索引は付けなかった。専攻分野にとどまらずに執筆された論文もあるので、他の項目もみていただきたい。

1 法学方法論・法社会学	(巻)(号)
Le droit et la morale — un memorandum Noboru Koyama	2
扶養意識の諸様相	
——北海道農村における意識調査より	品川孝次 6
法の解釈の科学性について	小山昇 7—1
司法上の決定とコミュニケーション	
——交通事故に基づく業務上過失致死傷事件 に対する略式手続の合理化のために	能勢弘之 15—1
デニング裁判官とその判決	
——ブル対ブル事件の意味	浅見公子 15—2
△ Thomas A. Cowan "Decision Theory in Law, Science and Technology"	能勢弘之 15—2
△ 「コンピューターによる判決の分析と予測」	
——特に Reed C. Lawlor の方法について	能勢弘之 15—3
2 法史学	
封建的土地所有の公権力的性格 (一三)	
——Gewere に関する一試論	藪重夫 5, 6

索引

Use 受益権とその史的性格 (十一)	菅原 勝 伴	6, 7-1
封建制の成立と封建社会の《細胞》	石 川 武	8-1・2
学説史と思想史—椽川氏による「中世国家論、 批判の発想法」をめぐって	石 川 武	9-3
西独シュヴァルツヴァルト地方における 農地の末子相続	川 井 健	10
△クレッシェル「ゲルマン法におけるジッペ」 パズルの「アーデルバウアー」に関する構想 —松田智雄教授の近業に対する一つの疑問	石 川 武	11-4
	石 川 武	12-1
西独ヴェルテンベルクにおける農地の一子相続	川 井 健	12-1
国王自由人学説とその問題点 (十一内) —中世初期ヨーロッパ国制史研究への 一つのアプローチ	石 川 武	12-2-3-4, 13-1-2-3-4
イギリスにおける妻の財産法上の地位 (十一(3・完)—附 資料(制定法訳)	浅 見 公 子	12-3-4, 13-1
イギリス初期議会史研究の動向について フランチァイズ裁判権と「王国共同体」の成立	山 下 和 夫	13-1
	山 下 和 夫	14-2
法学史における夫婦間の贈与(上)	小 菅 芳太郎	14-3・4
ルプリア法 — 名誉法の一問題点	小 菅 芳太郎	15-3
神官の解答活動 (市民法の法源)	小 菅 芳太郎	15-4
ウルピアヌス市民法註解第17巻について (1)	小 菅 芳太郎	17-1

3 憲 法

憲法・憲法学一般

G. エロー教授の法理論の特質	深 瀬 忠 一	14-2
A. エスマンの憲法学 —フランス現代憲法学の形成 (1)	深 瀬 忠 一	15-2
L. デュギイの行政法論と福祉国家 (a)(b) —フランス現代憲法学の形成 (2)	深 瀬 忠 一	16-2・3-4
M. デュヴェルジェ教授とJ. ロベール教授 を迎えて —フランス憲法・政治学の若干の側面	深 瀬 忠 一	17-3
△1965—1966年度フランス公法文献紹介	中 村 睦 男	17-4

索引

基本的人権		
ボン基本法と契約の自由	五十嵐 清	10
フランス憲法における社会権の発展 (1)-(3完)	中 村 睦 男	14-2, 15-1-2
1789年人権宣言研究序説 (1)-(3)	深 瀬 忠 一	14-3・4, 15-1, 18-3
親権と子どもの教育を受ける権利	中 川 良 延	14-3・4
西ドイツ農場令の違憲性	川 井 健	14-3・4
アメリカ合衆国における政教分離の原則 (1)-(7)	熊 本 信 夫	15-3・4, 16-1-4, 17-1, 18-2, 19-1
One Problem Concerning the Principle of Separation of Religion and Politics under Article 20 of the Constitution of Japan	Nobuo Kumamoto	16-2・3
宗教的不寛容のあらゆる形態の除去に関する 国際協定草案	熊 本 信 夫	17-3
良心的兵役拒否 (一)-(三) ——ボン基本法四条三項の構造と特質 統治機構・過程・作用	笹 川 紀 勝	18-1-2-3
フランス憲法史における条約と国内法 (一)-(三)	深 瀬 忠 一	7-2-3・4, 8-1・2
多数決と白票	今 村 成 和	10
フランスにおける立法過程に関する文献 ——J.P.ピュフラン氏の解説を中心に	深 瀬 忠 一	13-1
フランスにおける裁判官の独立について	小 山 昇	16-2・3
4 行政法		
行政法一般		
アメリカ行政法への試み ——その形成と問題	和 田 英 夫	2
フランス行政法成立史 (一)-(三) ——行政裁判権の形成・確立をめぐる		

索引

(フランス行政法研究 その一)	神谷 昭	12-2-3
フランス行政法における公役務概念について		
(一)-(三) (フランス行政法研究 その二)	神谷 昭	13-1-2-3・4
法と行政		
イェシュにおける憲法構造論 (1)	遠藤 博也	18-3
行政権限の競合と融合	遠藤 博也	19-4
行政行為・行政過程		
複数当事者の行政行為 (1)-(3)		
——行政過程論の試み	遠藤 博也	20-1-2-3
行政委員会		
州際通商委員会 (I.C.C.) の成長と展開	和田 英夫	1
行政手続		
アメリカ合衆国州行政手続法研究序説 (一)		
——改訂モデル州行政手続法	熊本 信夫	18-1
アメリカ合衆国都市行政手続法草案をめぐって	熊本 信夫	19-3
行政訴訟		
事実行為の取消訴訟	今村 成和	16-2・3
西ドイツ行政裁判所法に於ける一般概括主義 と行政裁判所の管轄権 (1)(2)	秋山 義昭	18-3-4

5 民法

 民法一般

西ドイツ民法学の現況		
附・ドイツ私法学者の経歴と業績	五十嵐 清	11-1
ファシズムと法学者	五十嵐 清	14-3・4
「ロシア共和国民法典」邦訳 (1)-(6)	五十嵐 清・ 佐保 雅子	16-1, 17-1-4, 18-3-4, 19-3
判例変更の限界		
——民法に関する最高裁判例の検討	川井 健	17-4
民法総則		
同一性錯誤と属性錯誤	米倉 明	17-2
物権法		
封建的土地所有の公権力的性格 (一)(二)		
——Gewere に関する一試論	藪 重夫	5, 6

索引

不動産の二重譲渡へのひとつのアプローチ	半田正夫	16-4
流動資産譲渡担保論一斑 (1)-(8)	米倉明	18-2-3-4, 19-2-3, 20-1-2-4
登記の推定力について	神田孝夫	20-1
債権法		
不動産賃借権の譲渡・転貸の自由性について		
(一) — その比較法的考察	五十嵐清・ 山之内一夫	8-1-2-3-4
英法におけるフラストレーション法理について		
— 事情変更の原則に関する比較的研究		
その一	五十嵐清	9-2
ドイツ法における行為基礎論の発展 (一)		
— 事情変更の原則に関する比較的研究	五十嵐清	11-4
西ドイツにおける私生活の私法的保護 (一)	五十嵐清・	11-4
— 一般的人格権理論の発展	松田昌士	
親族法		
△青山道夫「養子」(近代家族法の基礎理論)	山嶋正男	3
扶養意識の諸様相		
— 北海道農村における意識調査より	品川孝次	6
親族扶養の法的性格に関する一試論	藪重夫	7-2
西ドイツにおける新法定夫婦財産制について	浅見公子	8-3-4
イギリス夫婦財産法の諸問題		
— 戦後の判例の発展	浅見公子	10
審判による扶養料支払の始期について	石川恒夫	11-2
養育費支払義務をめぐる諸問題	石川恒夫	12-1
イギリスにおける妻の財産法上の地位		
(一)-(3・完) — 附 資料(制定法訳)	浅見公子	12-3-4, 13-1
離婚と法的統制 (1)	山嶋正男	16-1
身分行為における意思と届出 (1)		
— 仮装身分行為の効力について	山嶋正男	16-2-3
相続法		
西独シュヴァルツヴァルト地方における		
農地の末子相続	川井健	10
遺産「共有」の法的構成		
— 共有論と合有論の対立をめぐって	品川孝次	11-2

索引

西独ヴェルテンベルクにおける農地の一子相続

川井 健 12-1

6 商 法

商法総則

レヒツシャイン法理について

—表見支配人の研究 (一) 加藤 勝 郎 5

レヒツシャイン法理より見た商法第四十二条論

—表見支配人の研究 (二) 加藤 勝 郎 7-3・4

会 社 法

株式発行前の株式譲渡

大塚 市 助 5

法律体系中における社債法の地位

鴻 常 夫 10

発起人の契約

平 出 慶 道 12-1

株式会社不成立の場合における発起人の責任

(一) —発起人の地位の再検討 平 出 慶 道 12-2-3

引当金 (1)-(3)

藤 原 雄 三 19-1-2-3

海商法・保険法

△小町谷操三博士著「海難救助法論」

鴻 常 夫 7-1

保険の目的物の譲渡にともなう保険関係の変動

—ドイツ保険法の歴史的展開 石 田 満 14-1

7 民事訴訟法

請求について

小 山 昇 1

訴訟上の和解に関する判例

小 山 昇 3

家事審判について

小 山 昇 6

口頭弁論終結後の承継人について

小 山 昇 10

西ドイツにおける近年の訴訟物理論の分析

小 山 昇 11-1

事実関係について

—訴訟物理論の一断面 小 山 昇 11-2

審判による扶養料支払の始期について

石 川 恒 夫 11-2

訴訟物論

小 山 昇 11-3

référé について

小 山 昇 14-3・4

所有権確認の訴の利益不存在の諸形態

能 勢 弘 之 16-2・3

近年のわが国の判例に現われた訴訟物観に

ついて 小 山 昇 20-1

8 刑 法

△H. ヴェルツェル「目的的行為論の領域に

おける刑法の現実的諸問題」	内 田 文 昭	7—2
過失共同正犯の成否	内 田 文 昭	8—3・4
△荘子邦雄「労働刑法」	藪 重 夫	10
過失同時犯の正犯性 (1)―(4)	内 田 文 昭	11—1-2-3-4
刑の権衡論について	小 暮 得 雄	14—1
罪刑法定主義の比較法的動向	小 暮 得 雄	14—3・4
違法性と責任(序説)	小 暮 得 雄	15—4
刑事判例の規範的効力		
——罪刑法定主義をめぐる一考	小 暮 得 雄	17—4
月賦品処分の刑法的処理	米 倉 明	17—1

9 刑事訴訟法

刑事手続とデュール・プロセス	田 宮 裕	14—3・4
司法上の決定とコミュニケーション		
——交通事故に基づく業務上過失致死傷事件		
に対する略式手続の合理化のために	能 勢 弘 之	15—1
弁護権の実質的な保障 (1)		
——有効な弁護を受ける権利	田 宮 裕	16—2・3
捜査・自白・弁護権	田 宮 裕	17—2
公訴の利益 (1)(2)	能 勢 弘 之	19—1-2

10 経 済 法

経済法について	今 村 成 和	18—2
ドイツ経済法学説史略考 ——第二次大戦		
終了前までの学説を素材として	丹 宗 昭 信	19—2
西ドイツにおける経済統制法 (十三)	金 沢 良 雄	6, 7—3・4
経済法における計画	金 沢 良 雄	16—2・3
米国反トラスト法における独占と取引制限		
——私的独占禁止法の背景	今 村 成 和	2
反トラスト法における共同行為の認定について		
(1)―(3)	実 方 謙 二	15—4, 16—1, 18—3

索引

11 農地法

- 中華人民共和国の農地改革法について 小林 己智次 1
判例より見た農地調整法第9条 五十嵐 清 3

12 無体財産法

- 著作権の一元的構成について (1)-(5・完)
半田 正夫 15-1-2-3-4,
16-1
私的利用を目的とする音楽著作物のテープ録音
——西独著作権法53条5項制定の経緯 半田 正夫 17-2
出版の法理 ——出版契約に関する実態調査
を手がかりとして 半田 正夫 18-1

13 比較法

- 法系論序説 五十嵐 清 16-2・3
アメリカにおける比較法の研究および教育
の現状について 五十嵐 清 19-4
ドイツにおける比較法の発展 (1) 五十嵐 清 20-4

14 国際私法

- ソ連の民事法における新国際私法規定 欧 龍 雲 16-1
日華涉外身分法に関する若干の問題
——婚姻関係について 欧 龍 雲 17-3

15 外国法

英米法

- 英国家族相継産制度の沿革とその社会的・
経済的背景 (一) 三 宮 崎 孝治郎 1, 2
米国反トラスト法における独占と取引制限
——私的独占禁止法の背景 今 村 成 和 2
アメリカ行政法への試み
——その形成と問題 和 田 英 夫 2
Use 受益権とその史的性格 (一) 三 菅 原 勝 伴 6, 7-1
不動産賃借権の譲渡転貸の自由性について
(一) 三 ——その比較法的考察 五十嵐 清・
山之内 一 夫 8-1・2-3・4

索引

英法におけるフラストレーション法理について ——事情変更の原則に関する比較法的研究 その一	五十嵐 清	9—2
イギリス夫婦財産法の諸問題 ——戦後の判例の発展	浅見 公子	10
イギリスにおける妻の財産法上の地位 (一) (3・完) 一附 資料 (制定法訳)	浅見 公子	12—3-4, 13—1
アメリカ合衆国における政教分離の原則 (1) (7)	熊本 信夫	15—3-4, 16—1-4, 17—1, 18—2, 19—1
アメリカにおける比較法の研究および教育の 現状について	五十嵐 清	19—4
ドイツ法		
封建的土地所有の公権力的性格 (一) (二) ——Gewere に関する一試論	藪 重夫	5, 6
西ドイツにおける経済統制法 (一) (二)	金沢 良雄	6, 7—3・4
△H. ヴェルツェル「目的的行為論の領域に おける刑法の現実的諸問題」	内田 文昭	7—2
不動産賃借権の譲渡転賃の自由性について (一) (二) ——その比較法的考察	五十嵐 清・ 山之内 一夫	8—1・2-3・4
西ドイツにおける新法定夫婦財産制について	浅見 公子	8—3・4
ボン基本法と契約の自由	五十嵐 清	10
西独シュヴァルツヴァルト地方における 農地の末子相続	川井 健	10
西ドイツにおける近年の訴訟物理論の分析	小山 昇	11—1
西ドイツ民法学の現況 附・ドイツ私法学者の経歴と業績	五十嵐 清	11—1
ドイツ法における行為基礎論の発展 (一) ——事情変更の原則に関する比較法的研究	五十嵐 清	11—4
西ドイツにおける私生活の私法的保護 (一) ——一般的人格権理論の発展	五十嵐 清・ 松田 昌士	11—4

索引

西独ヴェルテンベルクにおける農地の一子相続

川 井 健 12—1

保険の目的物の譲渡にもなる保険関係の変動

——ドイツ保険法の歴史的展開

石 田 満 14—1

ファシズムと法学者

五十嵐 清 14—3・4

西ドイツ農場令の違憲性

川 井 健 14—3・4

私的利用を目的とする音楽著作物のテープ録音

——西独著作権法53条5項制定の経緯

半 田 正 夫 17—2

良心的兵役拒否 (一)―(三)

——ボン基本法四条三項の構造と特質

笹 川 紀 勝 18—1-2-3

イェシュにおける憲法構造論 (1)

遠 藤 博 也 18—3

西ドイツ行政裁判所法に於ける一般概括主義

と行政裁判所の管轄権 (1)(2)

秋 山 義 昭 18—3-4

ドイツ経済法学説史略考 —— 第二次大戦

終了前までの学説を素材として

丹 宗 昭 信 19—2

ドイツにおける比較法の発展 (1)

五十嵐 清 20—4

フランス法

州際通商委員会 (I.C.C.) の成長と展開

和 田 英 夫 1

フランス憲法史における条約と国内法 (一)―(三)

深 瀬 忠 一 7—2-3・4,
8—1・2

不動産賃借権の譲渡転貸の自由性について

(一)―(三) ——その比較的法考察

五十嵐 清 8—1・2-3・4

山之内 一 夫

バンジャマン・コンスタンの中立権の理論

深 瀬 忠 一 10

フランス行政法成立史 (一)―(三)

——行政裁判権の形成・確立をめぐる

(フランス行政法研究 その一)

神 谷 昭 12—2-3

フランス行政法における公役務概念について

(一)―(三)

(フランス行政法研究 その二)

神 谷 昭 13—1-2-3・4

フランスにおける立法過程に関する文献

——J.P.ビュフラン氏の解説を中心に

深 瀬 忠 一 13—1

G.エロー教授の法理論の特質

深 瀬 忠 一 14—2

フランス憲法における社会権の発展

(1)―(3完)

中 村 睦 男 14—2,
15—1-2

索引

1789年人権宣言研究序説 (1)―(3)	深瀬 忠一	14―3・4, 15―1, 18―3
référé について	小山 昇	14―3・4
A. エスマンの憲法学		
——フランス現代憲法学の形成 (1)	深瀬 忠一	15―2
L. デュギイの行政法論と福祉国家 (a)(b)		
——フランス現代憲法学の形成 (2)	深瀬 忠一	16―2・3・4
M. デュヴェルジェ教授とJ. ロベール教授 を迎えて ——フランス憲法・政治学の若 干の側面	深瀬 忠一	17―3
フランスにおける裁判官の独立について	小山 昇	16―2・3
△1965―1966年度フランス公法文献紹介	中村 睦男	17―4
アメリカ合衆国州行政手続法研究序説 (一)		
——改訂モデル州行政手続法	熊本 信夫	18―1
アメリカ合衆国都市行政手続法草案をめぐって	熊本 信夫	19―3
社会主義諸国の法		
中華人民共和国の農地改革法について	小林 己智次	1
ソ連の民事法における新国際私法規定	欧 龍雲	16―1
「ロシア共和国民法典」邦訳 (1)―(6)	五十嵐 清・ 佐保 雅子	16―1, 17―1-4 18―3-4, 19―3
16 政治学		
△河合栄治郎「独逸社会民主党史論」	矢田 俊隆	1
H・J・ラスキにおける自由 (一)	富田 容甫	3
北海道民のポーティング・ビヘービアの諸類型	尾形 典男・ 富田 容甫・ 十亀 昭雄・ 中島 哲	4
フリードリッヒ大王の統治について	矢田 俊隆	4
△M. デュヴェルジェ「政党論」	十亀 昭雄	6
△H. ベリング「労働党の起源」	清水 昭典	6
ルソー研究序説		
——彼の政治的人間像をめぐって	小川 晃一	9―1
第一次世界戦争におけるイギリス外交政策 形式の諸問題 (一)―(三)	吉川 宏	9―1-2

索引

イギリスにおける政党と圧力団体の研究の 現状について	十 亀 昭 雄	9-1
イギリスの議会政治と労働党 (一)(三)	十 亀 昭 雄	9-3-4, 12-2
地方都市中間層の生活心理と意識構造 (一) ——北海道帯広市における実態調査中間報告	大 江 健	9-3
△リュティ著「フランスの時差」 ——Luty, The State of France	小 川 晃 一	9-4
ロイド・ジョージとヨーロッパの再建 (1)-(4)	吉 川 宏	13-2-3・4, 14-1-2
19世紀における政党政治の一断面 — F. M. L. Tompson, Whigs and Liberals in the West Riding 1830-1860	小 川 晃 一	13-2
デカダントな社会における統合 (一)	小 川 晃 一	14-1
△J. プラムナツ「政治理論の効用」 ロックの自然法論	荒 木 俊 夫	14-1
北海道における地方制度の形成について (1)-(3)	小 川 晃 一	14-3・4
カルヴァンの教会理論 (1)(2)	清 水 昭 典	16-4, 17-2, 18-4
△Carman Blacker, The Japanese Enlightenment	荒 木 俊 夫	16-4, 17-3
政治的態度の測定 ——その方法と予備調査——	松 沢 弘 陽	16-2・3
フランスにおける政治生活	阿 部 四 郎	17-2
La Vie Politique en France	ジャック・ロベール	17-3
内村鑑三の歴史意識 (1)-(3)	深 瀬 忠 一 訳	17-3
アメリカの二つの中欧研究誌について	Jacques Robert	17-3
ルイス・ネーミアと18世紀英国政治	松 沢 弘 陽	17-4, 18-1, 19-4
行政機能の拡大が行政責任の形態に及ぼす 影響 (1) ——イギリス・大蔵省統制の 変容に関する一考察	矢 田 俊 隆	18-3
	阿 部 四 郎	18-4
	伊 藤 大 一	19-1

索引

ドイツ社会民主党指導者の状況認識と戦術 (1)(2) ——カール・カウツキーの場合 (その1) 1890-1900	山本佐門	19-2-3
△エヴァン・ルアード「現代国際体系における 戦争と平和」 Evan Luard, <i>Conflict and Peace in the Modern International System</i> , Little, Brown and Company	吉川 宏	19-4
行政官養成における法優位主義の合意 (1) —スボールディングの近業に関連して—	伊藤大 一	20-2
札幌郊外地区(手稲)の政治意識調査 (1)	(共同研究, 代表: 小川晃 一)	
I 人口構成	蓮池 穰	20-2
△井上毅の「北海道意見」と井上馨の「北海道 ニ関スル意見書」	清水昭典	20-3
17 その他		
最高裁判所破棄判例研究	北大法学会	7-1-2-3・4, 8-1・2, 9-2-4
松岡教授年譜, 著書・論文等目録		10
宮崎孝治郎教授の業績について	五十嵐 清	14-3・4
宮崎孝治郎教授略歴及び主要著作目録		14-3・4
故神谷教授を偲ぶ	今村成和	16-2・3
故神谷昭教授の略歴と業績		16-2・3
大学管理制度に関する意見書および意見 社会に抗する学生たち	北大法学会	14-2
「月刊レアリテ誌1969年8月号」から	タヌギユイ・ド・ケネタン 小山 昇 訳	20-3